

前期

文系

2020年度入学試験学力検査問題

地理歴史・数学

〔人文社会学部，経済経営学部：経済経営学科 一般区分，
都市環境学部：都市政策科学科 文系区分〕 90分

答案用紙

- ・日本史 2枚
- ・世界史 2枚
- ・地理 3枚
- ・数学 2枚

注意

1. 監督員の合図があるまで，問題の内容を見てはいけません。
2. 数学は，筆記用具のほか定規，コンパスの使用を認めます。
ただし，分度器の使用は認めません。
3. 受験番号及び氏名は，答案用紙の所定欄に必ず記入してください。

(例) 受験番号 1234567X の場合 →

		1	2	3
4	5	6	7	X

4. 解答には黒鉛筆またはシャープペンシルを使用し，必ず配付された答案用紙に記入してください。なお，世界史，数学は裏面にも解答欄があるので注意してください。
答案用紙には，解答に関係のないことを記入してはいけません。
5. 字数指定の設問で解答欄にマス目が用意されている場合，アルファベット及び数字は，1マスに2字記入しても構いません。
6. 問題は次に示したページにあります。
 - ・日本史 1ページ～8ページ
 - ・世界史 9ページ～17ページ
 - ・地理 18ページ～26ページ
 - ・数学 27ページ～28ページ
7. 試験中に不鮮明な印刷等に気付いた時は，手をあげて監督員に申し出てください。
8. 答案用紙を切り取ったり，持ち帰ったりしてはいけません。
9. 問題冊子の余白は利用可能ですが，どのページも切り離してはいけません。
10. 問題冊子は，持ち帰ってください。また，試験終了時刻まで退室できません。

世界史

1 次の文章を読んで、以下の問い(1～4)に答えなさい。

北インドに進出したアーリア人は、司祭者であるバラモンを最上位とするヴァルナという身分制度を形成した。前6～前5世紀頃、によりガンジス川中流域で開かれた仏教は、バラモンの支配に不満を持つ王侯・戦士や都市の商人に支持され、インド全域に広まっていった。前3世紀に南端部を除くインドを統一したアショーカ王は仏教を保護し、シンハラ人が進出していたへ上座部仏教が伝わったのもこの時代である。のち、紀元前後には、伝統的仏教⁽²⁾に対する革新運動として、大乘仏教が起こった。

大乘仏教は、西域を経て1世紀頃には中国へ伝来したが、中国社会一般に広まるのは、4～5世紀のことである。華北では、五胡十六国時代に西域出身僧の仏図澄やが布教に努め、中国の伝統思想にとらわれない異民族支配のもと、様々な身分の人々に受容された。江南でも老荘思想を通じて理解され、漢人貴族の間に流行した。東晋のは、仏典を求め西域経由でインドにおもむき、海路帰国し仏典を漢訳した。その旅行記が『仏国記』である。大乘仏教は周辺地域にも広まり、7世紀にソンツェン＝ガンボが建てたでは、民間信仰と融合しチベット仏教が生まれた。また、都であった慶州郊外のは、新羅の代表的な仏教寺院である。

インド・中国双方の文化が流入した東南アジアでは、スマトラやジャワなど島嶼部^{とう}で大乘仏教が栄えた。唐僧の義浄は、インドからの帰途、長期滞在した王国で、その繁栄の様子を特筆している。一方、大陸部では、中国文化の影響が強かったベトナム北部をのぞき、上座部仏教が優勢であった。上座部仏教は早くに、ビルマ系のピューヤ、モン人のドヴァーラヴァティーで受容され、のち11世紀に成立したビルマの朝により、さらにタイ・カンボジア・ラオスなど大陸部各地へ広まった。

問 1 空欄 a～h に適切な語句を入れなさい。

問 2 下線部(1)に関連して、その後、8～13世紀を通じて、仏教はインドにおいて次第に衰亡の道をたどる。その理由を、この時代の政治・社会経済の状況と、仏教などに対抗する宗教運動の展開を踏まえ、以下の4つの語句をすべて用いて、110字以内で説明しなさい。使用した語句には下線を引くこと。

[語句] ラージプート時代 陸上交易 都市 バクティ運動

問 3 下線部(2)について、大乘仏教の中心思想の名称を記しなさい。また、大乘仏教の特徴を、従来の伝統的仏教のそれと対比しながら、60字以内で説明しなさい。

問 4 下線部(3)について、漢人社会の間でも、漢代までの儒学にかわり、魏晋南北朝時代には、仏教・道教が人々の心をとらえるようになった。その理由を、この時代の社会状況と、儒学と仏教・道教それぞれの思想的特徴とを踏まえ、60字以内で説明しなさい。

2

次の文章を読んで、以下の問い(1～5)に答えなさい。

ヨーロッパは、中世を通じてたびたび人口の変動を経験した。8世紀から10世紀の間は人口成長の停滞期だった。この時期、外来勢力が相次いで侵攻し、例えばノルマン人は船で河川を航行して主要都市を次々と襲い、その一部は北フランスに定住した。⁽¹⁾こうした社会的混乱のため都市は成長せず、一方、王領地が集中するライン・ロワール川間を中心に、農民は保護の見返りとして領主に対して⁽²⁾従属を深めた。

続く11世紀から14世紀までの間に、大陸ヨーロッパの人口はおおよそ3倍に増えた。人口増加を後押しした要因として重要なのは、温暖な気候と、農業技術の⁽³⁾向上による食糧生産の増大である。また、この時代は都市の発展も著しく、14世紀初頭において、総人口約7500万人のうち1500～1700万人が都市に住んでいたと考えられている。これらの都市は地域ごとにそれぞれ特色を持っており、人口規模や職業構造⁽⁴⁾は千差万別であった。

14世紀半ばに流行したペストによって、ヨーロッパは人口の3分の1から3分の2を失ったと言われる。急激な人口の減少は経済の停滞と社会不安を招き、各地で大規模な農民反乱が相次いだ。この時期、人心の安定に寄与するはずの宗教界にも大きな混乱が見られ、約40年続いた複数の教皇が並び立つ状況⁽⁵⁾は、教皇権の失墜を決定的なものにした。こうした混乱が解消された後は、しばしば改革の機運が高まるもうまくいかず、教会の威信が従来の水準にまで回復することはなかった。

問 1 下線部(1)のノルマン人は、さらに海を渡って新たに2つの王国(王朝)を築いた。そのうち、12世紀前半に成立した王国(王朝)の名称を記しなさい。

問 2 下線部(2)の具体的な内容と、その後、中世を通じて領主と農民の関係がどのように変化していったのかを、以下の5つの語句をすべて用いて、200字以内で説明しなさい。使用した語句には下線を引くこと。

〔語句〕 賦役 貨幣経済 農民一揆 保有地 移住の自由

問 3 下線部(3)について、この時期に確立した農業技術を2つ記しなさい。

問 4 下線部(4)に関連して、次の表は 14 世紀のヨーロッパのある都市における職種ごとの構成比を示したものである。

(単位：%)

カテゴリー	1302 年	1338 ～ 40 年
商人	2.55	3.61
両替商・取引仲介業	8.36	6.89
建築業	11.28	10.93
毛織物工業	44.63	37.15
金属(武具・鍛冶)・ その他手工業一般	14.16	18.40
食料品・ビール醸造業	10.50	11.62
^{しやし} 奢侈品生産	3.83	7.90
輸送業	2.25	2.47
その他	2.44	1.03

河原温『都市の創造力』による(一部改変)

- ① この都市はどの地方に属すると考えられるか。北ドイツ、シャンパーニュ、フランドル、ロンバルディアから最も適当なものを1つ記しなさい。
- ② ①の地方が争点の1つとなって、14世紀から15世紀にかけて2つの国の間で戦争が起こった。その戦争の名称を明記しつつ、戦争のきっかけについて50字以内で説明しなさい。

問 5 下線部(5)について、教皇庁が置かれた都市名を2つ記しなさい。

世界史の試験問題は次ページに続く。

3 次の文章を読んで、以下の問い(1～3)に答えなさい。

19世紀後半のヨーロッパ諸国では、市民社会の成熟が文学や芸術の領域にも大きな影響を及ぼした。近代科学の発達の影響を受けて社会を科学的に観察する風潮が高まると、現実をありのままに描写しようとする や、それをさらにおし進めて人間や社会を客観的にとらえようとした の潮流が各国に広まった。また、フランスの美術界では、光と影の色彩を重視した があらわれ、マネやルノワールが活躍した。

生物学も急速に発展し、中でも1859年に が『種の起源』を発表して を提唱すると、多方面で激しい論争を引き起こしつつ人々の世界観を大きく変えていった。未知の世界に対する関心も高まり、 やスタンリーにより 内陸部の探検が行われた。

一方、科学技術の発展を背景に、ヨーロッパ諸国は19世紀後半に急速に重工業化を進めていった。国力をますます強化して「列強」と呼ばれたこれらの国々は、積極的な対外進出を展開し、勢力圏の拡張をめぐる対抗があった。南北戦争を経て世界最大の工業国となった⁽¹⁾アメリカ合衆国もまた、積極的な対外進出に⁽²⁾のりだし、カリブ海・太平洋地域に勢力圏を拡大していった。

問 1 空欄 a～g に適切な語句を入れなさい。

問 2 下線部(1)に関連して、19世紀末にドイツ・フランス・ロシアの間で起こった外交関係の変容を100字以内で説明しなさい。

問 3 下線部(2)について、1898年にアメリカ合衆国大統領マッキンリーの下で展開された海外膨張策とその帰結を120字以内で説明しなさい。

世界史の試験問題は次ページに続く。

4

次の文章を読んで、以下の問い(1～4)に答えなさい。

中華人民共和国成立以来、1976年に亡くなるまで国务院総理をつとめた周恩来の外交分野での活動は、よく知られている。1954年、周恩来は、a 戦争の休戦協定を成立させたジュネーブ会議に中華人民共和国の代表として出席し、同年、インドのネルーとともに b を提唱した。この翌年には、ネルー、エジプトのナセルらとともに c 会議にも参加している。

- (1) 1950年代後半以降、それまで「蜜月」といわれた中国とソヴィエト社会主義共和国連邦との関係は、悪化の兆しを見せはじめ、1958年には中国独自の社会主義建設を目指す d 運動が行われたが、多大な損害を出して失敗に終わった。これにより、毛沢東に代わって劉少奇が国家主席に就任した。しかし、政策路線をめぐる両者間の対立は深まり、1966年に発動された文化大革命において、劉少奇は批判され失脚した。この間、周恩来もまた四人組らによる批判を受けたが、林彪事件後には、混乱した経済のたて直しや、劉少奇とともに失脚した 鄧小平の復権をはかった。さらに、外交面では、アメリカ合衆国との関係改善、
(2) 日本との国交正常化への道筋をつけた。(3)

問 1 空欄 a～d に適切な語句を入れなさい。

問 2 下線部(1)の人物が大統領在任中に起こった第二次中東戦争(スエズ戦争)の原因について、130字以内で説明しなさい。

問 3 文化大革命収束後、下線部(2)の人物の指導下でとられた経済政策の名称を記しなさい。また、その経済政策の具体的な項目を3つ記しなさい。

問 4 下線部(3)について、この時期にアメリカ合衆国が中国との関係改善を求めた背景を120字以内で説明しなさい。

